

重信中学校剣道部女子

Shigenaku junior high school Kendo club

令和3年度第73回愛媛県中学校総合体育大会で、重信中学校剣道部女子が団体の部で優勝。神奈川県で開かれる全国総体への出場を決めた。同部の全中出場は28年ぶり3度目だ。

剣道部女子部員は5人。6月の東温市・上浮穴郡中学総体を順当に勝ち上がり、県大会へと駒を進めた。県大会当日の7月25日、意外にも初戦にピンチを迎える。大将の川上愛桃さん（3年生）は「初戦ということもあり、全員身体が硬くなっていました。結果的には2―1で何とか勝てましたが、その後5人で『自分の役割をもう一度確認して、仕事をしっかりこなしていこう』と話し合いました」と振り返る。気持ちを切り替えた5人は続く準々決勝で危なげない試合展開を見せ、4―0で勝利したが、準決勝で再び壁が立ち、はだかる。八代中との対戦を副将の河野遼子さん（2年生）はこう振り返る。「先鋒が1本取り、次鋒が引き分け、中堅が2本負けという場面で自分に回ってきました。私の仕事は大将になぐこと。話し合いを思い出して試合に臨みました」。

河野さんが1本を取り試合を振り出しに戻した重信中は、その後大将の川上さんが2本取り、3―1で勝利。波に乗る重信中は決勝の舞台でも全員が躍動。4―1で勝利し、全中への扉を開いた。5人は全国での活躍を誓い、8月18日に保護者、教員に見送られながら神奈川県へと旅立った。

剣道部女子は選手それぞれの役割を明確にし、自分の仕事に集中して次につなげるスタイルが根付いている。先鋒の稲葉海那さん（3年生）は「先鋒は後が見えないポジション。どうなるかわからないけれど、次を信じて先勝を目指しました。決勝戦は会心の試合だったと思います」と

自信をのぞかせた。中堅の乗松眞子さん（2年生）は「自分にとっては初めての総体、3年生2人にとっては最後の夏。5人で力を合わせて結果につなげることができたと思います」と喜ぶ。「去年総体が中止になったときは心が空っぽになりました。中学最後の舞台に立てなかった先輩の姿を今も覚えています」と言葉を詰まらせた。唯一の1年生、一之瀬未桜さんは「先輩たちのおかげで良い経験ができます。コロナ禍で中学に入學し、規制が多く、新しく覚えることも沢山あります。全中の舞台でしっかりと学んで、来年、再来年と、自分の代でも全国に出たいです」と未来を見据えた。

重信中は8月20日、川崎市とどろきアリーナ第7試合場で、祇園東中（広島県）と対戦。取材日には「デイズニールランドに行くのを目指して頑張ってたけど、コロナで行けないのが一番残念です」と中学生らしい一面で笑いを誘った5人だが、防具を身に纏うと眼差しは戦う仕事師に一変する。卒業した先輩の思いも背負い、剣道部に新しい歴史が刻み込まれる。



28年ぶりの県制覇 全国へ挑む 5人の仕事師



東温高校3年生
小林 琉奈さん

東温高校3年生
谷本 和霞さん



全国高校総体出場 東温高校陸上競技部女子5000m競歩 小林 琉奈 2人で戦った夏

「緊張したけれど、自分らしく、楽しく歩き切ることができました」。小林琉奈さん（田窪）は予選1組で登場。結果は22人中13位だった。「決勝に進めなかったのは悔しいですが、四国大会で負けた選手と予選で同組になって勝てました。目標の一つはクリアできたかな」。新しい歴史を作った彼女の目は笑っていた。

高校で競歩競技に出会い、その才能が開花。以来多くのタイトルを獲得してきたが、その裏には同部マネージャー谷本和霞さん（則之内東）の存在が大きかった。「挫折そうなとき、いつも一番近くで声をかけてくれた。かけがえない存在です」。インターハイ出場を記念して、お揃いのタオルをプレゼントした。

将来は進学と競歩審判の資格取得を目指している小林さん。顧問の越智先生は「非常に努力家。これからも自分のために闘ってほしい」と労った。

系譜を受け継ぐ、重信中学校剣道部



2年生 りょうこ
河野 遼子さん



3年生 みな
稲葉 海那さん



3年生 みんと
川上 愛桃さん



1年生 みお
一之瀬 未桜さん



2年生 まこ
乗松 眞子さん



2年生 ひろき
砂川 旺毅さん



2年生 こうのすけ
片上 倅之介さん



1年生 りょうた
鈴木 涼太さん



1年生 よしのり
白戸 誠剛さん



2年生 けいこう
門地 慧剛さん

剣道場は重信中学校体育館の1階奥。道場前の廊下の壁に目を見ると、歴代の総合体育大会の成績が記されたボードがある。剣道部女子は平成5年に優勝。男子も歴代には優勝の

二文字が刻まれている。2年生の片上倅之介さんは今回の中学総体でベスト4、第59回四国中学校総合体育大会男子個人戦に出場し、四国第3位の成績を収めている。「周りは3年生

が多かったので、2年生らしく先輩に胸を借りるつもりで挑みました。来年は全国に行きたい」と静かに闘志を燃やした。時代が変わっても剣道部の精神は受け継がれている。

山

内

Kinya Yamauchi

新田高校野球部 背番号 6

欣

也

栄冠は君に輝く。

第103回全国高等学校野球選手権大会愛媛大会は、新田高校が聖カトリナ高校との熱戦を制し、創部初めて夏の甲子園への切符を手にした。

2年ぶりに開催された選手権大会。悲願の初優勝を飾った野球部でショートを守るのが、2年生の山内欣也選手（上林）だ。小学校2年生時に兄・寛吾さんの影響で野球を始めた山内選手は、中学時代は松山中央ボーイズに所属。右投右打で守備にも定評がある。スタメン定着は1年生の秋。「守備面では取って投げるといっただけではなく、周囲への声かけが大事。気持ちの面で引っ張っていける存在でありたい」と話す。

県大会では随所で好守が光った山内選手だが、本人は反省の色を見せる。「バツティングは情けない結果でした。出塁して少しでもチームに貢献できるように、まずは初戦突破を目指しています」。県大会決勝進出を決めたダブルプレーの立役者は、大舞台に向け気持ちを新たにしていた。

台風9号の影響により1日延期して開幕した甲子園大会。新田高校は8月10日初日の第2試合、静岡高校（静岡県代表）と対戦した。2回表に早くも試合が動く。先発の向井選手（2年生）が1死1、3塁のチャンスで先制打を放つ。さらに6回表、山内選手にチャンスが回ってきた。ランナー3塁のカウント3―1からレフトへの見事なタイムリーヒットで追加点。適時打でチームに勢いをもたらした。抜群の守備力で6回まで静岡高校を無失点に抑えたチームは、7回裏に同

悲願の初V 新田高校甲子園初戦突破 2年生遊撃手



点に追いつかれるも、セクターへの大きな当たりを長谷川選手がスーパースライクチ。山内選手のストライク送球でダブルプレーに仕留め、最大のピンチを脱した。これで流れに乗り8回表に2点を奪い、試合終了。全員野球で初戦を突破し、新しい歴史を作った。

「いつも迷惑をかけている両親に、少しでも恩返ししたい」。未知の世界に挑む山内選手の更なる活躍に期待したい。

全国大会試合結果

試合	対戦校	試合結果
1回戦	静岡	4－2

愛媛県大会試合結果

試合	対戦校	試合結果
決勝	聖カトリナ	12－2
準決勝	川之江	9－2
準々決勝	宇和島東	5－1
3回戦	北条	4－2
2回戦	今治西	5－3